

日本および中国における地域スポーツクラブの組織文化に関する比較研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-03-15 キーワード: 作成者: 趙, 倩穎 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003263

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 49 号

日本および中国における地域スポーツクラブの組織文化に関する比較研究

(A comparative study based on the organizational culture between Japanese and Chinese community sport clubs)

趙 倩穎 (ちょう せんえい)

博士 (スポーツ健康科学)

論文内容の要旨

日中両国で、地域スポーツクラブの量的拡大から質的充実への転換が求められていることを踏まえ、本研究では、①経営学の組織文化測定尺度が日中両国に共通する地域スポーツクラブの組織文化を測定する尺度として妥当であるかを確認すること、②またその尺度により日本と中国の地域スポーツクラブの組織文化の特徴を明らかにすることの2点を目的とした。

調査は東京と上海の各 10 クラブから計 400 名の指導者に留め置き法で実施し、日本 129 名、中国 128 名の有効回答を得た。なお本研究は順天堂大学倫理審査委員会の承認を得て行われた。

尺度の妥当性確認に関しては、組織文化国際比較の第一人者であるホフステードの調査項目を援用した尺度、目標 (14 項目)、知覚 (5 項目)、信念 (10 項目) について探索的因子分析を行い、経済機会因子 (目標) 3 項目、指導機会因子 (目標) 3 項目、現実的問題認識因子 (知覚) 4 項目、理念的課題認識因子 (信念) 2 項目の計 12 項目の尺度を抽出した。4 因子の平均値は、日本、中国ともに、指導機会因子が最も高い値を示した。また構造方程式モデリングおよび多母集団同時分析から、日本、中国の共通点として、理念的課題認識因子から経済機会因子への正の影響が見られるという特徴が得られた。また日本、中国の相違点として、日本においては理念的課題認識因子から指導機会因子への正の影響がみられたのに対し、中国では影響が見られなかった。

本研究の結論として、①経営学の組織文化尺度は、4 因子 12 項目を抽出することで日本と中国の地域スポーツクラブ組織文化測定尺度として適用可能であることが確認できた。②日中両国のクラブは、地域スポーツクラブの指導者に指導機会の充実に向けて高い動機づけがみられる組織文化であること、③日中両国のクラブは、地域スポーツクラブの指導者に、信念に基づいて経済機会の諸条件を改善しようとする姿勢がみられる組織文化であること、④指導者に信念に基づいて指導機会にかかわる諸条件を改善しようとする姿勢がみられるのは日本にのみ認められる組織文化であること、の 4 点が確認できた。